

華為技術(ファーウェイ)を巡る問題が浮上した後、再度の米中首脳会談を調整する動きに変化はみられない。中国は現在のような発展が継続すれば10年以内に経済力で米国に追いつくと考えており、最優先するのは発展を可能にする平和の維持だからだ。台湾や南シナ海を巡る



東洋学園大教授

朱建栄氏

米中対立 先行きは

貿易問題では妥協余地

軍事的緊張を伴う新冷戦に突入するのは避けたい。と自体を阻止したいので折

中国からみると、トランプ

り合えない。

プ米大統領と主流派の対中要求にはズレがあり、トランプ氏の方がくみしやすい。対米貿易黒字削減のため、知財や国有企業を巡る国内改革には痛みや混乱が伴うが、受け入れられなくはない。

ためだ。

一方、主流派は中国に長期的発展をもたらす先端技術が高い。

貿易問題では妥協が可能でも、次世代の技術覇権を巡る争いの方がより根深く、米国は今後も次々と中